

海外臨床薬学研修 報告書

研修期間：令和7年2月12日～令和7年2月21日

所 属：名城大学薬学部薬学科

学 年：5年

学籍番号：200973447

氏 名：長江里奈

1. 参加目的

5年次の実務実習が終わり、日本の薬局や病院の薬剤師の役割について学んだため、アメリカの薬剤師の役割を学び、日本との違いを知りたいと思ったから。また現地の薬局や病院、授業の様子などを実際に見学してみたいと思ったから。

2. 研修内容

【研修テーマ】

アメリカの医療や薬剤師の役割、薬学部教育制度について

【研修日程】

月日	研修内容
2月13日	アリゾナ大学薬学部の紹介、アメリカの薬学教育について、インドからアメリカにきた人の講義、服薬アドヒアランスについて
2月14日	ジャマイカ、サウジアラビアから来た人の講義、アメリカの薬剤師の役割について、HIVについて、病院見学、アメリカの医療制度について
2月17日	尿路感染について（現地の学生の授業に参加）、輸液バッグの調剤、ワクチン接種における薬剤師の役割について、精神疾患について、サウジアラビアから来た人の講義
2月18日	医療安全について、ウェルネスについて、Pharmacy museum の見学、Poison Center の見学
2月19日	CVS の見学、プレゼンテーション、微生物について（現地の学生の授業に参加）、Phillip 先生の講義、オピオイドについてレジデント生の発表

【研修内容の詳細】

アメリカの薬学部教育制度や他の国からアメリカの薬剤師になる方法を学んだ。アメリカの薬学部は2年間 pre-pharmacy で学んでから4年間専門教育を受ける。学んだことを教えるなどアウトカムすることが大切であり、グループワークやプレゼンテーションなど能動的な授業がある。臨床的な教育を必要としていて1700時間も実習を行う。

アメリカの薬剤師の役割を学んだ。日本と大きく異なる点として、アメリカの薬剤師はワクチンを打つことができる。薬剤師の役割として、ワクチン接種の意義を伝えたり、ワクチンの管理、ワクチンに関する患者へのカウンセリングなどを行う。また、薬剤師だけでなく、トレーニングを受けた薬学部の学

生もワクチンを打つことができる。アメリカではドライブスルー形式でワクチンを接種したり、ドラッグストアでワクチンの接種をすることもできる。

Poison Center は毒や薬に関する緊急治療のアドバイスを行ったり、専門的な知識を提供する機関である。実際には子供の誤飲や虫に襲われたときなど様々な場面で相談を受け、アドバイスする機関である。Poison center はアリゾナ州に 2 か所あり、Poison center に電話するのは無料であるため、病院に行く前に Poison center に電話することで医療費を抑えることができる。

CVS の見学では実際に働く薬剤師やテクニシャンの方のお話を聞きながら、薬剤師の役割について学んだ。薬局には病院から直接電子の処方箋が送られてきて、患者が来る前に薬を準備する。日本とは異なり PTP シートを用いずに容器に直接薬を入れる。アメリカではテクニシャンがピッキングなどを行うため、薬剤師は監査や患者からの質問に答えることを行う。そのため、見学した薬局にはテクニシャンが 6 名、薬剤師が 2 名で 1 日 600 枚ほどの処方箋に対応していた。薬を患者に渡すのもテクニシャンが行い、患者が質問した場合に薬剤師が答えるといった形であった。

3. 感想

この研修を通してアメリカと日本の医療や薬剤師の役割、教育など様々な違いを理解することができた。違いを理解することで、日本の医療の良い点や問題点などを考えるきっかけとなり、大変貴重な機会であった。講義の中で印象に残っていることとして、他国の薬学部を卒業した後にアメリカに来て、アメリカの薬学部で学び直している人が多くいたことである。特にアメリカの薬剤師になるための試験の 1 つとして TOEFL のスコアが必要であるが、その試験を 10 回以上受けたという話が印象的であった。他の国から来ている人は英語が初めから得意なのだと思っていたため、とても努力していることを知り刺激を受けた。自分自身は 6 年間薬学部で勉強して、薬剤師として就職するのが普通だと思っていたが、様々なキャリアを経験している人の話を聞いて視野を広げるきっかけとなった。

また講義を通して、アメリカにはテクニシャンがいるため、薬剤師はより臨床的で専門的な知識を持ち医師と対等な扱いであることが日本と大きな違いだと思った。そのため、実習の期間がとても長かったり、臨床的な知識を学生のうちから身につけているのだと感じた。日本にはテクニシャンはいないが、機械化が進み薬剤師の役割が問われる中で、薬剤師としてどのようなことが求められるのか考えていきたいと思った。またアメリカの学生は、リーダーシップを重要視していたり、ボランティア活動をしている人が多いなどとても主体的であると感じた。これまでは受け身になりがちであったが、残りの学生生活や就職した時に主体的に行動するようにしたいと思った。

アリゾナ大学の学生と交流の機会を何度か設けててもらい、とても充実した時間を過ごすことができた。様々な国籍や年齢の人と交流することができ、完璧な英語ではなかったが、たくさんコミュニケーションを取ることができた。また、アメリカの学生の雰囲気や文化の違いなどを知ることができとても刺激的な 10 日間であった。このような機会を頂けたことに感謝の意を表する。